

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1



発行日：平成 27年 3月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第4回全体会議を開催しました！

2月24日に、矢作川流域圏懇談会第4回全体会議を開催しました。各部会から今年度の活動内容についての報告による情報共有を行い、来年度の流域連携の重要性を確認することができました。

日時：平成27年2月24日（火）14:00～16:00
場所：西三河総合庁舎10F 大会議室
参加者：73名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 今年度の山・川・海部会の活動報告／来年度の活動方針



①山部会

- 設定した4つのテーマを各回で議論。全8回のWGを恵那、根羽、豊田、岡崎で実施。各地を2回ずつ訪れて、その内の1回は、地域の特徴的な森づくり等の見学会を実施した。
- 来年度は、4つのテーマについて今年度同様に進める。川・海の両部会とも積極的に連携を図り、3年目を迎える山村再生担い手づくり事例集の集大成として流域圏の地図に取材先団体の情報を整理することも検討する。

②川部会

- 全8回のWGを開催し、現地見学やアンケート調査を実施。本川モデル、家下川モデル、地先モデル、それぞれについて各3回から5回に分けて、ワーキングの中で検討した。
- 来年度は3つのモデル地区の対象区間にとらわれずに検討していく予定。特に、専門家リストの充実、公開ヒアリング等の実施も行い、活動団体マップの作成も行っていく予定。

③海部会

- 8回のWGをワーキングを行い、おおむね各テーマについて2回ずつ実施。ごみ・流木調査については、広く他団体にもご参加をいただき、流域連携について模索した。
- 海に対する意識やニーズの把握や、ごみの調査をやっていますので、そこら辺と連携、海の漁業者に対してもそれに近い形で交流会的、干潟試験造成を核にしてそれぞれの活動展開

2. 全体会議で決まったこと



今回の全体会議で決まったことと、今後の矢作川流域圏懇談会の運営に向けて、今後の方針について情報共有を行いました。全体会議で決まったことは、以下の通りです。

- 山・川・海の各部会における様々な活動の中で、流域圏の連携を探ることは重要であるため、来年度は、全体会議で示された来年度の行動指針を実現しながら、積極的に流域連携を図っていく。
- 河川整備計画に対するフォローアップは今年度初めての取り組みであったため、フォローアップの項目などは今後検討することとして、引き続き実施していく。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@iiinet.or.jp) までお送りください。



◆話し合いでの主な意見

1. 今年度の海・川・山の活動報告への意見



●山部会

- ・森づくりガイドラインの流域圏として統一性のある森林管理とはどのような意味か(本守)
→矢作川流域の森林には高いポテンシャルがあり、流域圏を構成する行政についても、やる気があるなど特徴的な行政があるため、将来的には、そのような地域で試行的にモデル林の設定・モニタリングなどを行い、流域圏全体で共有していきたい。(蔵治)



●川部会

- ・川部会で議論されている水量不足について、来年度の展望を聞きたい。(蔵治)
→矢作川の水は水源がない状況で今後も検討していく。(西原)
- ・公開ヒアリングの意味と内容みたいなことを少し教えて(丹羽)
→流域圏懇談会の活動に参加していない活動団体の方に積極的にヒアリングに行っているという意味で「公開」と称している。(西原)
- ・山部会の事例集と同じフォームで実施することで流域圏での連携が期待できる。(丹羽)



●海部会

- ・流域圏で干潟へ砂を投入するイベントがあれば非常にシンボリックでよい。(丹波)
- ・水質の問題は矢作川河口では問題になっていないと考えてよいか。(辻本)
→矢作川河口域はそのような状況にない。水質は、濃度だけで計るのではなく水量の問題もある。水量の観点からは流域圏の土砂収支の障害といった部分も前面に出すことがよい。(鈴木)
- ・矢作川の河口と濁水の関係についての研究が矢作川研究所でみたことがある。(井上)
→矢作川の河口近くでアユの子供がどの場所によくいるか調べたことがあるが河口近くではあまりとれず、一色干潟でたくさんとれたという経験がある。(山本)



2. 流域圏一体化に向けた意見



●流域一体化に向けて

(●意見 ▶ 回答)

- ・ケイ酸が流域連携のテーマにもならなかった経緯を知りたい。(内田)
 - 土砂や流木・ごみの方が漁業の方と話をするときにはわかりやすいという議論があった。ケイ酸についてご理解いただくにはもう少し時間がかかる。(井上)
 - 矢作川流域圏におけるケイ酸の収支についての科学的知見は少ないと思う。(鈴木)
- ・土砂のテーマは川部会の担当者が決まってから議論を深めることがよい。(蔵治)
 - 市民の代表の方を入れたほうがよいという議論を進めているところ。(西原)
- ・水量のテーマはなくてもいいか確認したい。(蔵治)
 - 水量はテーマ共通で行いたいという意見があり現在のテーマで行っている。(西原)
 - 水量はどのテーマからアプローチしても、辿り着くところは同じと考えている。(黒田)
- ・学識経験者にはこれから進むべき方向を示唆していただけるように諮問しているとお考えいただくといい。(黒田)
- ・パケツリレー等の楽しそうな話は全体でみんなでやる機会もてるのか。(丹羽)
 - 矢作ダムをみんなで運ぶという意見があったが、実際は船で導入することになった。山・川部会の方にも参加いただけるよう考えてはいきたいと思う。(西原)
- ・矢作川流域支部が根羽村にできたというのが今年の山部会の一つの大きな出来事であり、根羽の今村氏にコンタクトをとると川や海でのイベント時にスギダラ製品を持ってきてもらえるので流域内での広がりが期待できる。(洲崎)
- ・来年度の事例集が完成すると3年分の取材先を1枚の流域の地図に落とす作業を来年度やっていきたい。森づくりガイドライン、木づかいガイドラインの地図づくりと重ねていきたい。また、川部会のヒアリング、海部会の人と絆の再生の活動も同じ地図に落として、1枚の地図で矢作川流域の連携をつくれるような動きにつなげていきたい。(洲崎)
- ・河川整備計画のフローアップの項目立てについて疑問がある。(本守)
 - 年度始めに事業概要等で工事の説明をしているがフォローアップとしての項目は引き続き検討する。(西原)
- ・大門水辺整備は整備内容が公園整備となっているが、具体的にどのような整備なのか。(洲崎)
 - 公園整備が中心であれば、自然環境の保全や野生生物との共存にもウエートを置いてほしいと思った。(洲崎)
 - 自然環境の保全創出とか、周辺環境との調和を図りながら工事は進めさせていただく。(西原)

